

“心情の強調”をあらわす
モダリティ形式と命題の評価性

—「てならない」「ずにいられない」などを中心に—

田中 寛

On the Modality Expressing “Strength of Feelings”
and Evaluation of Proposition:

A Case Study of “-te naranai,” “-zuni irarenai,” and
Other Similar Expressions

TANAKA Hiroshi

Abstracts

The present paper discusses expressions which emphasize emotion. These expressions are categorized into main groups of “-te irarenai,” and “-zuni irarenai.” Some evaluation is done based on the grammatical forms, idioms, and lexical items. The relationship between a proposition and its modality is explained by this impossibility of evaluating propositions from different perspectives.

【キーワード】 心情の強調 強制 モダリティ 命題 評価性

1. はじめに

文末にあらわれるモダリティ表現にはさまざまな形態、性格が観察されるが、本稿ではこれまであまり考察されることのなかった心情の強調をあらわす表現をとりあげる。具体的には述語表現に託される感情表出の一形態で、テ形（形容詞のクテ、形容動詞のデ形）を用いる「てならない」、動詞の「ずに」に接続する「ずにいられない」などを代表的な形式とする。これらは一般に「強調」と称されるものの、そのふるまいにはいくつかの制約があり、一般的な特徴の規定と同時に、個々の用法の記述的な考察が必要とされる。また結果的には評価判断をくだすものの、命題の評価性（プラス、マイナス）をめぐっても曖昧な点が指摘される。さらに類義的な表現をどう意味づけるのか、発生（使用）の要件などもふくめて語用論的にも関心をもたれるところである¹⁾。日本語学習者の中にはこれらの用法を正しく使い分けることも困難であることから、一定の使用制限を考察することは意味のあることと思われる。

これらの述部の否定表現には一種の全面的な肯定として主張される点に共通した特徴が見られるが、どのような状況のもとで発話されるのか、といった文脈も研究上、考慮に入れる必要がある。直接発話される場合も含め、述語形式を導く前件ないし、接続のありかたにも関心をはらうのはもちろんだが、さらに形式化した意味機能として、単に主体の心情の高揚、強調に加えて、聞き手目当てのモダリティにも転じていることにも注意したい。

2. 「て」形接続の構文（1）

文末叙述形式のタイプの一つとして、感情表出の表現があるが、本稿であつかう文法現象は、感情や心情の発露をコントロールできないまま、ある種の判断と評価の間に位置づけるものである。ここでは大きくは二つの類型について考察する。

2. 1 「てならない」

「なる」の原義には、ある安定した状況への指向、ないし到達をあらわす特徴が認められ、「なければならない」「なくてはならない」「ことになる」などの文末複合辞にはそうした性格がよくあらわれている。「ならない」は文型としては、

- (1) a. 無断で庭に入ってはならない。
- b. 医療ミスはあってはならない事故である。
- c. 許可無しに使うことはならん。

のように「いけない」と同様、禁止や制止をあらわす。ここでは形容詞相当語のテ(クテ)の形と「ならない」が一体化し、そのような状況から開放されない事態にあることをあらわす。心情的な拘束が結果として「非常に」という程度の強調となってあらわれたものである。多くが眼前的な事象に対するものであるが、過去の事態に関しては回顧、追認的な意味をあらわす。「ならない」は「どうにもならない」という、主体の気持ちがどうにもおさまらない様子をあらわす。

- (2) 最後の演技で失敗してしまって、悔しくてならない。
- (3) 両親に死なれて、悲しくてならない。
- (4) 大事にしていた仔猫が死んでしまい、寂しくてならなかった。
- (5) 部屋に入ると、蒸し暑く、息苦しくてならなかった。

形容動詞相当語では「心配」、「残念」などがあげられる。

- (6) 娘の帰りが遅く、心配でならない。cf. ??心配してならない
- (7) 一点差で負けたことが残念でならない
- (8) 信頼していた彼に裏切られたことが無念でならない。

「(今か今かと) 気が気でならない」のように慣用的な言い方も見られる。いずれも「非常に…だ」という感情、心情の高まりをあらわしている。こうした内面の表明、伝達には周囲に対しては共鳴を得たいという間接的な働きかけ性のモダリティが認められる。たとえ、独白的に用いることがあっても、いわば聞こえよがしな物言いになることが普通である。

前接の多くが形容詞語彙であるが、動詞では形容詞の性格に近い次のような感情動詞が用いられる。

(9) 彼の言動には腹がたってならない。(；無性に腹が立つ)

また、希望願望表現にも「ならない」がともなうことが少なくない。

(10) 長く離れていると、会いたくてならない。

(11) 海外生活が長くなると、日本食が食**た**くてならない。

(12) この音楽を聞**く**たびに、故郷が思**い**出さ**れ**てならない。

(2) から (6) の例のように前件が原因理由をあらわし、後件主文で生起する心理的状况をあらわすという構造が一般的であるが、その他の例のように「彼の言動には (に対しては)」や、「裏切られたことが」などのように前件、後件の複文らしさをともなわないケースもあれば、複文として (10), (11), (12) などのように、「と」「たびに」といった常態性や習慣性をあらわす条件節、頻度節を受けながら、「てならない」があらわれることが少なくない²⁾。

述語の意味的な特徴、性格としては、感覚的なもの、属性・形状をあらわすものは用いることができない。この場合は後述の「てたまらない」を用いるが、(13) c. のように全く非文になるものもある。

(13) a. ?決算期ともなると忙しくてならない。

b. ??今年の夏は暑くてならない。

c. *この一帯は夜になると静かでならない。

また人称制限については、これらは観察主体の評価で一般に主語が一人称であることが成立条件となる。第三者や対人的関係においては使用が困難である。

(14) ??彼は心配でならない。

cf. あなたを見ていると、私は心配でならない。(放っておけない)

この場合は文末にモダリティをあらわす助動詞を附与するか、あるいは「のだ」、過去時制などによって成立が可能となる。とくに過去時制は台本のト書きなどにもあらわれる。

(15) a. 彼は心配でならないらしい。

b. 彼は心配でならないのだ。

c. 彼は心配でならなかった。

なお、「てならない」の派生形に「てなるものか」という反語表現がある。否定の強い意志をあらわすが、やや固い表現である。

(16) 追え！ 逃がしてなるものか。(；逃がすな)

2.2 「てたまらない」「てしかたがない」「てしようがない」

「ならない」に類似した述語成分として「たまらない」「しかたがない」「しようがない」がある。いずれも「てならない」で見たように程度の強調をあらわすが、「ならない」が自発的内容を受けてあらわれたのに対して、一定の使用の制限が見られる。

(17) ??この音楽を聞くたびに、故郷が思い出されてたまらない。

(18) ?あなたを見ていると、心配でたまらない。

「たまらない」は文字通り、我慢ができない様子、また「しかたがない」「しようがない」は、外に方法がない、なす術がないという状況をあらわす。「たまらない」「しかたがない」は感覚的なものも使用できる。(以下「>」は発話らしさ・自然度のレベルをあらわす)

(19) 来日した当初は寂しくて {しようがなかった>たまらなかった>ならなかった}。

(20) このところ農繁期で忙しくて {たまらない>しかたがない>??ならぬ}。

一方、「うるさい」「暑い」なども「たまらない」「しかたがない」が用いられる。「ならない」はやや不自然である。

(21) 工事の音がうるさくて {たまらない/しかたがない/?ならない}。

また、「うれしい」などのプラス価値に関しても「ならない」は「たまらない」よりも使用度は低いようである。

(22) 上場企業に合格できて、うれしくて {たまらない/しかたがない/?ならない}。

「たまらない」「しかたがない」は感覚形容詞にも用いられるが、「ならない」は

一般に不自然である。

(23) 今年の冬は寒くて {たまらない>しかたがない>?ならない}。

(24) 東京の物価は高くて {たまらない>?しかたがない>??ならない}。

形状に関しては次のようにいずれも無理がある。

(25) この鞆は小さくて {?しかたがない>? ?たまらない>*ならない}。

一方、次のような使用に耐えるかどうかという観点からはとくに支障がないケースもある。

(26) この部屋は狭くて {しょうがない>?たまらない>??ならない}。

「物価が高い」なども「ならない」は不自然である。「たまらない」なども何らかの注釈成分をおくことによってより落ち着いた文になる。「たまったものではない」「どうにもしかたがない」はそれぞれ「て」に連動するというよりも、独立した述語成分とみなされる。

(27) a. 東京の物価は高くてたまったものではない。

b. 東京の物価は高くてどうにもしかたがない。

「たまらない」は「たまらなく」のように副詞としても用いられる。

(28) 辛くてたまらない。 = たまらなく辛い。

「たまらない」の派生形として「たまるか」という表出系としての反語表現があることに注意したい。これは「絶対に…したくない」という意志表明に用いられる。

(29) あんなやつに負けてたまるか。(; 絶対に負けたくない)

(30) 自分だけ乗り遅れてたまるもの (です) か。(; 絶対に乗り遅れたくない)

一般に「てたまらない」「てしょうがない」は感情や感覚をあらわす状況が自分の意志で押さえられない様子をあらわす。「てたまらない」は変化、発生を表すことも「ならない」に比べると比較的多いようである。

(31) 家族からの手紙を讀んでいたら、声が聞きたくてたまらなくなった。

cf. ??... 聞きたくてしかたがなくなった。

??... 聞きたくてならなくなった。

「たまらない」「しかたがない」も多くは主語は一人称に限られるが、前件にあられる場合は人称制限がゆるやかになるようである。この場合も過去の事態に限定される。

(32) 彼は頭痛がしてたまらなかつたので、近くの病院へ行った。

ここで再度「てならない」と比較すると、「てならない」がどちらかといえば、生理的な表出を主務とし、次のような自発動詞の場合は、「てたまらない」「てしようない」に置き換えにくい。

(33) 交通事故で両親をなくした子どもが可哀相に思えててならない。

cf. ??可哀相に思えて {たまらなかつた/しかたがなかつた}。

(34) 国の家族のことが自然と思い出されててならなかつた。

cf. ??国の家族のことが自然と思い出されて {たまらなかつた/しかたがなかつた}。

3. 「て」形接続の構文(2)

本節では否定される状況を強く差し出す言い方を観察する。大きくは三種の形態について考察する。2. でみた類型が心情にもつぱら傾斜していたのに対して、ここであつかうものは意志の介在、比較的冷静で客観的な情勢判断にもとづくものである。

3.1 「ていられない」

「て」形に接続する形式的な述語として「いられない」がある。これはもともと基本的には「いることができない」という不可能の意味をあらわす。「ていられる」は同時に可能の状態をあらわす。否定形式では「は」、「も」は任意である。

(35) 明日は日曜日だし、ゆっくり寝ていられる。

(36) 時間がないから待ていられない。すぐ始めよう。

(待ってはいられない、待ってもいられない)

こうしたアスペクト「ている」の打ち消しが次のようにモダリティの意味を附与されると、一種の感情の飽和した状態的な表現となる。

(37) もうこれ以上、黙って見ていられない。

(38) 父が入院したので、今までのように遊んでばかりいられない。

「見ていられない」は口語では「見てられない」「見ちゃいられない」「見てらんない」のようなくだけた形になることもある。(38)のように「ばかり、ばかりは、ばかりも」が挿入されることもある。その場に臨んで感情の制御が不可能になるケースや、生来の性癖などをあらわすことが多い。

(39) 彼は車内の騒然とした状況に(対して)、黙っていられなかった。

(40) あの人は片ときもじっとしていられない性格だ。

共通して一途な性格をあらわす。また、「なんか」が挿入されることもあり、文字通り「…ていることができない」という状況をあらわす。「時間がない」「余裕がない」という意味も含意する。内発的な感情の高まりをあらわすほか、次のように余裕がないという意味で用いられるケースも少なくない。

(41) あなたとなんか、付き合っていられない。

(42) 子育てを考えると悲しんでなどいられなかった。

cf. 悲しんでいる暇・余裕 (など) はなかった。

肯定形の「いられる」「いられよう」が反語的に用いられることがある。状況を指示する「これ」などの指示語をとまなうことが多い。同じように〈拒絶〉、〈反発〉をあらわす。

(43) a. こんなときに落ち着いていられますか。

b. こんなときに、黙っていられようか。

また、「よく…ていられるね」というかたちで、相手にフェイントをかける言い方も談話展開としては特筆すべき表現であろう。

(44) あんなに馬鹿にされて、あなたもよく平然としていられるわね。

あなたも亭主に浮気されて、よく我慢していられるわねえ。

これは通常の価値判断では「黙っている」状況が珍しいという通念にもとづくものである。なお、接続の態様は前節でみた「てならない」などと同じく、前

件に原因理由節をおく複文構造を呈するものが多い。また、「てならない」に比べて聞き手目当ての意識が高いことが特徴的である。「いてもたってもいられない」「むずむずする」といった、非常に気が急ぐ状態を述べたものである。

3.2 「ておかない」、「てやまない」

「ておかない」は「ておく」の否定形でもあるが、不可能の意味をおびて「ておけない」の形で用いるものである。「は」の介入もしばしば認められる。

(45) 彼女を見ると可哀相で、とても見捨てて(は) おけない。

(46) 正体を見られた以上は、生かして(は) おけない。

もともと「おかない」の形もないわけではない。その場合は「てはおかない」のように「は」が介入する傾向がある。

(47) 大事な花瓶を壊されてしまつては、父も黙つて(は) おかなかつた。
文末反語表現「ておくものか」の形で、否定的な意志の強さをあらわす。

(48) このままにしておくものか。(：決してこのままにしておかない)
「やまない」は文字通り、「ずっとそういう気持ちで居続ける」という気持ちをあらわし、スピーチなどで用いられる。「は」の介入は認められない。

(49) a. 貴社のますますの発展を願つてやみません。

b. みなさまのご協力を切望してやみません。

過去から一貫してそうであったという事実の経緯をあらわすのに用いられることもある。

(50) a. 井上氏は一生そのことを後悔してやまなかつた。

b. あの人は私の父が生前尊敬してやまなかつた人です。

「願う」「祈る」「尊敬する」などの動詞に限られ、命題は一般にプラス評価である。「憎んでやまない」などはむしろ破格に属する。

このほか、あらたまつた言い方として、テ形に接続するものではないが、ル形接続の「にたえない」がある。否定的な評価をあらわし、わざわざそのようにする価値がない、あるいは我慢の限界の背景に遂行できない生理的な事由があることを示す。

- (51) a. 投稿論文のなかには審査にたえないものも数件あった。
b. 彼の講演は予想に反して、聴くにたえないものであった。
c. あまりの悲惨な事故の現場は、正視するにたえなかつた。

「見るにたえない」「読むにたえない」は「見ていられない」「読むにあたいしない」といった拒否的な判断をとまなうほか、「たえない」は心情的な不可能表現を形づくる。

- (52) a. 「単なる運搬手段で、座るに耐えない車椅子が問題だ」
b. 師団長も「部下の兵を以て部下の兵を討つに耐えぬ」と言っている。

一方、「にたえない」には名詞に接続する、極限の意味をあらわすケースがある。

- (53) 慙愧にたえない、感謝の念にたえない、喜びにたえない、寒心にたえない、遺憾にたえない。…

「非常に」という強調をあらわし、慣用的なフレーズを構成している⁵⁾。

なお、「に足りない」は満足にできない、資格がないという意味をあらわす。

- (54) この一件はばかばかしくて、問題にするにたりない。

4. 「ては」「ても」に接続する心情の強調

「ては」で導かれる前件を受けて、結果として逃れようのない臨界的な状況をあらわす言い方として、「てはたまらない」「てはしかたがない」をとりあげる。「てはならない」が禁止をストレートにあらわすのと違って、この両者は話し手の評価的な姿勢を差し出す。

「ては」であらわされる既定条件文の慣用的な述語形式をなす。したがって、「は」は前節で見た「てはいられない」「てはおけない」などの任意の「は」と異なり、接続成分の一部で必須である。

4.1 「てはしかたがない」「てはたまらない」「てはかなわない」

- (55) a. そこまで言われてはしかたがない。

b. 正体を見られてしまってはしかたがない。

c. 選挙資金が集まらなくてはどうしようもない。

前件の既定の事態を受けて、立場をなくした様子、あきらめの気持ちをあらわす。「ては」形式の定型的な叙述形式であるが、「打つ手がない」という意味をあらわす。「てはしかたがない」と同じようにマイナス評価をあらわすが、「我慢の限界」については、お手上げだ、という意味もあらわされる。

(56) a. いくら丈夫な体でも無理が続いてはたまらない。

b. こんなに寒くてはたまらない。

cf. 寒くてたまらない。

c. こんなに恥ずかしいことを人に話されてはたまったものではない。

d. 毎日こんなに早く起こされてはたまらないだろう。

e. 毎晩、遅くまで騒がれてはたまらない。(；身がもたない)

f. 一流選手ばかりそろえてこられてはたまらない。

「ては」と同様に、「とは」との接続も可能である。「ては」とくらべて「とは」にはやや客観的な評価がともなう。

(57) こう毎回、都合よくことが運ぶとはたまらんね。

「おもいやられる」「大変だ」「やっていけない」「立つ瀬がない」という状況を自他ともに共有的願望をこめて差し出す言い方である。不満、不平をあらわす文脈が一般的である。

(58) a. クーラーもなくてこう暑くてはかなわない。

b. 物価がこんなに高くてはかなわない。

c. 毎日、こう雨が降ってはかなわない。

「こう」「こんなに」などの指示語をともなうことが多い。一種の言葉にならない、呆れた心情をあらわす。

(59) あんたにまでそう言われてはかなわんなあ。

4.2 「てもしかたがない／てもしょうがない」「てもはじまらない」

これまでの経緯・経験から、大方の事態の結末が判明しており、「当然……」

「どうにもならない」「どうしようもない」といった諦念をあらわす。

- (60) a. 雨が降れば、行ってもしかたがない。
b. 時間通りに着けなくても仕方がない。
c. いまさら悔やんでもしかたがない。
d. あなたに言ってもはじまらないけど。

「しかたがない／しようがない」は「ては」も「ても」にも使えたが、「たまらない」「かなわない」は一般に「ては」の形にあらわれ、「ても」には使われない。

- (61) *a. いまさら謝ってもたまらない。
*b. いまさらやめろと言われてかなわない。

5. 「ないでは」「ずには」に接続する心情の強調

「ないでは」も「ずには」も基本的には同じ意味をあらわす。この場合の「は」は限定をあらわし、任意成分で省略もさしつかえないが、一般に「は」をとまなうことが多い。いわゆる二重否定表現で、意味は肯定的な強い姿勢をあらわす。また、これまで述べてきたタイプが感情形容詞（相当）語彙が主体であったのが「ないでは」「ずには」のタイプでは動詞に限られる。いずれも二重否定形式をもって強い肯定をあらわす。

5.1 「ないではいられない」「ずにはいられない」

ある事態に遭遇して、どうしても我慢が押さえられず、自然と「そう」になってしまうことを言いたいときの表現で「思わず」「無性に」などの副詞をとまなうことも多い。過去形の場合は「思わず…てしまう」の形に言い換えられる。

- (62) 私は林さんの困った様子を見て、声をかけないではいられなかった。
= ……思わず声をかけてしまった。

- (63) 悲しい訃報を聞いて、泣かないではいられなかった。
= ……思わず泣いてしまった。

(64) 読み始めたら終わりまで読まないではいられない。

(65) 職場でいやなことがあると、酒でも飲まないではいられない。

「ずにいられない」も同様の意味をあらわす。

(66) 無事だった子どもを見るやいなや、抱きしめずにはいられなかった。

(67) その話を聞けば、どんな人でも笑わずにはいられないだろう。

(68) 悲しい知らせを聞いて、涙を流さずにはいられなかった。

(69) タバコがそばにあると、つい吸わずにはいられない。

(70) 車の多い道路で遊んでいる子どもを見ると、注意せずにはいられなくなる。

命題対象を指示詞で受けながら、反語的に述べる言い方がある。

(71) これが怒らずにいられようか。(反語)

5.2 「ないではおかない」「ずにはおかない」

文字通り、そのままにしておくことがきでない状況、状態をあらわす。主体は人物以外の命題でもよい。

(72) この作品は読者の胸を打たないではおかないだろう。

(73) 野党は与党の政策転換を攻撃しないではおかないだろう。

(74) 彼の言動はみんなを怒らせないではおかなかった。

(75) 科学の進歩はいつか生命の謎を解かずにはおかないだろう。

(76) 今のような政治情勢では国民に不信感を与えずにはおかないでしょう。

ここで注意しなければならないのは述語の形は「おかない」であって「おけない」の形がない点である。さらに「ないではいられない」と異なる点は主語が一人称や過去の出来事には用いられないことがあげられるが、「こちら」などの集合名詞や、「ずにはおかなかった」の形では許容度が高い。

(77) ? 私はこの仕事をやりとげずにはおかない。

(78) 車内がうるさかったので、私は黙っていないではおかなかった。

⇒ 車内がうるさかったので、私は黙っていないではいられなかった。

(79) 先に手を出されては、こちらも反撃せずにはおかない。

- (80) 警察はどんな小さな手掛かりでも調べないではおかないだろう。
- (81) 彼の言動は周囲を苛立たせないではおかない。
- (82) その事件は一般市民を恐怖に陥れずにはおかなかった。

5.3 「ないではすまない」「ずにはすまない」

予定していたことをしなくてもよくなる。予測された好ましいことが避けられる」という意味。「すまない」は「終わらない」という不安定な心理状況をあらわしている。マイナス評価の事態をあらわすのが普通である。

- (83) 大切なものを壊してしまったのだから、買って返さないではすまないでしょう。
- (84) 検査の結果によっては、手術しないではすまないだろう。
- (85) 社長命令の会議だから、出席しないではすまないだろう。

「ないではすまされない」、「なくてはすまない」の形もまれに見られる。

- (86) こんなひどいことをしたのでは、お母さんに叱られないではすまされない。
- (87) あれだけお世話になったのだから、一言お礼に行かなくてはすまないだろう。

いずれも複文の主文としてあらわれることが多い。「ないではすまない」「ずにはすまない」は「ないですむ」「ずですむ」と表裏の関係にある。

- (88) 今日やっておけば、明日やらないですむ。
⇒今日やっておかなかつたら、明日やらないではすまないだろう。
- (89) 軽い症状なら、病院にいかなくてもすむだろう。
⇒重い症状なら、病院に行かなくてはすまないだろう。
- (90) 検査の結果によっては手術せずにはすまないだろう。
- (91) 親戚みんなが出席するのなら、うちも行かずにはすまないだろう。
- (92) あいつはいつも生意気だから、ひとつドカンと言ってやらずにはすまない。
- (93) 彼があんなに怒っているのだから、こちらから誠意を見せずにはすま

ないだろうね。

「ないではおかない」「ずにはおかない」が能動的、積極的な言い方であったのに対し、「ないではすまない」「ずにはすまない」は「すまされない」の形にもあらわされるように、受身的、消極的な言い方であるといえる。

「ずに」と「ないでは」は基本的には同じ意味をあらわすが、どちらかといえば、「ずに」のほうが“高揚度”が高いように思われる。さらに、次節であつかう「ないわけにはいかない」「ざるをえない」に近い意味をあらわす。

5.4 「わけにはいかない」「ざるをえない」

「わけにはいかない」はこれまで見てきた「ないではおかない」「ないではすまない」に類似しているが、肯定、否定の形にも接続し、とくに否定接続に主体である自者に対する心情的な強制の意味がはたらく。もっぱら動詞表現に限られる。

(94) あなたに貸すわけにはいかない。

；あなたには貸せない。

(95) あなたに貸さないわけにはいかない。

；あなたには仕方なく貸す。

(96) みんなが参加するなら、私も参加しないわけにはいかないだろう。

「ざるをえない」は更に消極性をあらわすが、避けることのできない状況を差し出す。選択肢がないことを表明する点では「ないわけにはいかない」よりも訴え度は強い。前件は必然的に「なら」「ので」「以上」「ては」などの原因理由節、条件節が多くあらわれる。

(97) これだけ国際的な非難を浴びれば、政府はさすがに計画を白紙に戻さざるをえないのではないか。

(98) 会員がこんなに減ってしまったては、会を解散せざるをえない。

(99) 人間だけが苦悩を知るがゆえに、笑いを発明せざるをえなかった。

(100) 至急送らなければならないので、高くても航空便で送らざるをえない。

「結果的に」そうするより方法がない、打つ手がない、という切迫した状況をあらわす。恒常化、習慣化するうちに、「ほかない」「しかない」のような限定表現へと転成していく。

以上、強い肯定をあらわす言い方を見てきた。

6. 「限りだ」「ったら」などの評価性について

感情にも発話の時点で止まったままの状態をあらわすのか、そうではなくて動的にこれから何らかの行動がとられることを示唆する言い方が見られる。ここでとりあげる「限りだ」は前者の静的な状況を、「わけにはいかない」は後者の動的な姿勢をあらわすものと位置づける。さらに「ざるをえない」にあってはしばしば「なければならない」のいわばマイナス的な側面、事態への取り組みにおいて消極的姿勢をあらわすとされるが、「わけにはいかない」との異同についても不明な点が少なくない。

6.1 「限りだ」

原則として形容詞に後接し、次のように用いられる。「かぎり」は形式名詞的な成分で、限定の意味のみを残して実質的な意味をうしなっている。

(101) みんな僕のことを信用してくれない。寂しい限りだ。

(102) せっかくの計画を途中でやめざるをえなくなるなんて、残念な限りだ。

(103) 大学生が平和公園の折鶴を焼いてしまうとは、恥ずかしい限りだ。

(104) 隣りに高層マンションを建てられて、何とも腹立たしい限りだ。

(105) 明日、お別れしなければならないと思うと、名残惜しい限りです。

「限りだ」は「反対する限りではない」のように否定的叙述をもってする注釈的な言い方でもあるが、この場合は「非常に……である」といったひたすら主観性の強調をあらわす。原因理由の「て」のほか、「とは」「なんて」、また「と思うと」などの接続成分に導かれる前件がその根拠となる。また主題化にともな

う「ときたら」「のは」などで前件が導かれることもある。マイナスの事態評価が大部分であるが、プラス評価もないわけではない。

(106) 第一希望の大学に合格できて、うれしい限りだ。

(107) 彼のような有能な人が我が社にいてくれるのは、たのもし限りだ。

(108) 最近の若い人の考え方の自由さときたら、うらやましい限りだ。

人称制限が働き、主語は「私」かあるいは私を含めた世間一般の代弁者として無主語が置かれるのが普通である。無念さをあらわす「何とも」などの副詞をとともなうことが多い。形容詞は感情をあらわすものにほぼ限定され、次のような用法は非文となる。

(109) *毎日、客が少なく、暇な限りだ。

(110) *この店は客が列をつくるだけあって、おいしい限りだ。

(111) *連日の熱帯夜で、寝付けない限りだ。

(112) *遠く故郷を離れていると、両親に会いたい限りだ。

6.2 「にもほどがある」「つたらない」

「限りだ」と違って、通常を越えているという事実を明示して、「あきれる」といった非難する姿勢をあらわす。命題はマイナス性のものが多い。程度をあらわすことから、動詞、形容詞にも用いられる。

(113) 人をばかにするにもほどがある。

：人をばかにし過ぎて、あきれる。

(114) 忙しいからといって、部屋がきたないにもほどがある。

：部屋が汚すぎて、あきれる。

「限りだ」では許容された過去形はここでは用いられない。

(115) ??人前で叱られてはずかしいにもほどがあった。

cf. 人前で叱られてはずかしいかぎりだった。

「つたらない」は「といたら(あらわす言葉も)ない」という連語の縮約形で、「つたらありゃしない」のように口語的な言い方である。「それ以上」の程度にあることを主観的に評価・判断したものである。

(116) a. あんなやつに負けて、悔しいったらなかった。

b. 昼食後はもう眠いったら何の。

「ったらありゃしない」は「にはほどがある」同様、過去形は用いられない。「限りだ」に比べ、眼前表示的な傾向が強い。

(117) ??あんなやつに負けて、悔しいったらありゃしなかった。

「(っ) たら」はもとは「といえば」の口語縮約形である。

(118) a. そのタイ料理の辛さったら並みではない。

b. この子ったら、ほんとに遊んでばかりいるんだから。

c. あなたったら、人の話ちゃんと聞いているの？

「ときたら」という話題、主題をあらわす用法と類義的である。これはまた、反復形式としても、また文末に強い確認形式としても用いられる。動詞文のほか、形容詞文、名詞文にも広く接続が可能である。「何度言ったら分かる」という反語的な意味も併せ持つ。

(119) a. 行かないったら行かない。(=行かないと言ったら行かない)

b. 嫌い (だ) ったら嫌い (だ)。

c. 日本人 (だ) ったら日本人だ。

(120) a. 行かないったら。

b. 嫌い (だ) ったら。

c. 日本人だったら。

いずれも「絶対に」という最後通達的な、心情の強調（ここでは「拒否」「主張」）をあらわす。ただ、この「たら」はこれまで見てきた主体の単なる「心情の強調」とは趣を異にし、詠嘆的な傾向の強い命令（禁止）、指示などにも用いられる5)。

(121) a. きょうはだめだったら！

b. 早く行けったら！

c. いい加減にしろったら！

また、この用法 (117), (118) に限り、「って」の形に言い換えが可能である。これも反語の形を潜在的に有し、たとえば「行かないって言っているだろう、

それが分からないのか」と言った反駁の気分をあらわしている。

(122) a. 行かないって。

b. 嫌いだって。

c. 日本人だって。

(123) a. きょうはだめだって！

b. 早く行けって！

c. いい加減にしろって！

7. おわりにー命題の評価性について

本稿で考察した構文の多くが前件に原因理由節をとるものであった。一部に条件節をふくみながらも感情の昂揚を発生せしめる起因的な状況の提示が必要とされた。これらの前件はまた、述語のあらわすモダリティの評価の対象にもなっている。たとえば、原因理由節は次のように命題化が可能である。命題の内実は、マイナス的な評価が大部分を占めることから、予想外の事態、反期待性の事態がほとんどであった。

(124) 両親に死なれて、悲しくてならない。

⇒ 両親に死なれたことが悲しくてならない。

(125) 大事にしていた仔猫が死んでしまった{こと/*自分}が寂しくてならなかった。

(126) 選手一丸となって戦えなかった{こと(自体) / 自分}が悔しくてならない。

よくインタビューなどで語られる例でもあるが、「悔しさ」の対象がたとえば外在的な「一丸となって戦えなかった」ことと、事態を引き起こした主体である「自分自身」に対する不甲斐なさとは並行して述べられる。内在する感情と外在するものへの感情が混在する、一種のあいまいな表出の形態ともいえるものである。

また、ここでみた類型は主文述語において顕在し、前件にあらわれる確率は

少ない。前件が感情の表出をうながすと同時に、対象命題として位置づけられている点が共通的な特徴となっている。いわば、複文にひきずられた述語表現のタイプともいえるだろう。

さらに、「何とも」「まったく」のような評価副詞をともなう点にも注目したい。これらは言語化しにくい事態を結論づけるのに有効な働きを有しており、接続の規定のあいまいさを補う意味でも重要な成分である。

さて、本稿の前半で検討した「てならない」「てたまらない」などの類型選択をめぐっては、近年、杉村（2002）の調査研究がある。文法性の判断は特定の語彙に傾斜する傾向は当該表現にとどまらないが、語性のほか発話主体の主観にもゆだねられることも少なくない。評価性については前後の文脈なども考慮する必要があるだろう。対照研究からの視点も有効であるが、詳細は別の機会にゆだねたい⁵⁾。

本稿では心情表現として一定の類型をなすと思われる、「て」「ない」「ず」に後接する後続句表現、複合辞を考察した。これらは疑問文になることもなければ、相手に働きかけるという特徴ももたない。また、「て」「ないで」「（ずに）」に接続する補助動詞「いる」「おく」「すむ」などがアスペクトからモダリティ用法の生成に関わっていることが分かる。しかも、一種の自己主張によって、感情伝達の有力なストラテジーとなっている点には注目すべきである。いわば主観性の強い形式であるが、次に命題の評価性について、これまで観察した特徴を比較しておく。個々の事例についてはさらに観察が必要である。

	命題の評価性			命題の評価性	
てならない	+	-	*{ないで/ずに}ならない	/	/
ていられない	+	-	{ないで/ずに} (は)いられない	+	-
ておかない	/	-	{ないで/ずに} (は)おかない	/	-
*てすまない	/	-	{ないで/ずに} (は)すまない	/	-
.....					
限りだ	+	-			

わけにはいかない	/	-
ざるをえない	/	-
ったら	+	-

こうしたモダリティ形式の使用条件、発生背景については類義表現という角度からも興味深いものであるが、それだけに、学習者の立場からはどのような状況で使用すべきか迷うところでもある。本稿であつかった表現は使用度の高いものでありながら、決定的な状況を述べる際には使用状況が限定されるものでもある。学習者の誤用例まであげることはできなかったが、モダリティの指導の際には注意すべき表現項目であろう。

注)

- 1) 益岡 (1991) の分類には「心情の強調」といったモダリティは提示されていない。本稿では「当為」と「説明」にかかわるものとひとまず位置づける。
- 2) 「てならない」には「は」が介入しない。また、口頭語ではまれに「なくていられない」のように「なくて」による接続が見られる。また、「ならない」のほかに
 試合に出たくてむずむずする。
 仕事が多くてにっちもさっちもいかない。
 などのように個々のプラス、マイナスをあらわす心情表現もある。
- 3) 「耐えない」が「耐えられない」となると、「耐え切れない」の意味で次のように用いられる。「座るに耐えない」などはこの意味に傾く。
 重さに耐え切れない、執拗な誘惑に耐え切れず…、
- 3) 白川博之監修 (2001) でも指摘があるように、「ものだ」「ことだ」「ところだ」の意味機能と重なることがある。これらの形式名詞を核とした表現形式については、別の機会を設けて考察を試みたい。
- 4) 「(っ)たら」は条件形の言い指しとして、誘いなどの用法がある。

もうそろそろ寝たら（どう）？

少し、召し上がったら（どう）？

しかし、ここでの対象とする「ったら」はこうした用法とは異質のものと考ええる。

5) 中国語の「得要命」「得很」などの類型については徐（1993）などを参照。

【参考文献】

グループジャマシィ（1998）『日本語文型辞典』 くろしお出版

徐曼（1993）「程度補語に関する一考察—“～得很”、“～得厉害”などについて」

『言語と文化』第4号 文教大学言語文化研究所

白川博之監修（2001）『中上級を教えるための日本語文法ハンドブック』スリー

エーネットワーク

杉村泰（2002）「コーパス調査による文法性判断の有効性—「～てならない」を

例にして—」『日本語教育』114号

田中寛（2003）『日本語文法6 例文で学ぶ文型集』（試用版）早稲田大学日本

語研究教育センター

田中 寛（2004）『日本語複文表現の研究—接続と叙述の構造—』白帝社

友松悦子他（1996）『どんな時どう使う日本語表現文型500中・上級』アルク

益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版

松木正恵・森田良行（1987）『日本語表現文型 複合辞の用法』アルク

三宮礼子他（2001）『複雑・微妙な意味を言い分ける助動詞（上級）』 専門教

育出版